

果 樹

1 りんご

(1) あら摘果

満開後 30 日以内にあら摘果を行います。あら摘果が遅れると肥大が悪くなるだけでなく、翌年の花芽形成にも影響します。凍霜害の被害を受けている場合でも果そうの中で 1 果にするあら摘果を行きましょう。基本的に中心果を残し、側果を落としますが、「ふじ」では中心果の状況が悪い場合は側果を残しても良いです。また、果柄はできるだけ基部から落とします(図 1)。

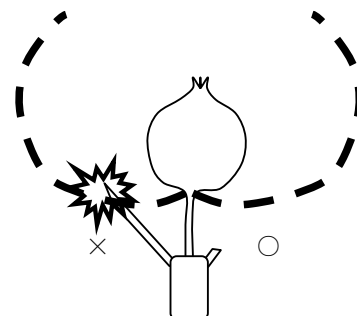


図 1 摘果の方法

<秋映>

さびの発生を軽減するために満開期までに中心花を残して摘花することが必要です。もし一輪摘花が実施できなかった場合は、1 日でも早くあら摘果をしてください。

<シナノスイート>

問題となる心かびは、開花期が早い年ほど、また、あら摘果時期が早すぎると発生が多くなります。満開後 3～4 週間頃に行いましょう。しかし、前年に心かびの発生が少なく、小玉果が多くなっている場合は、あら摘果の時期を早め、肥大促進を図ります。

<シナノゴールド>

開花期間が長く結実も良好なので、肥大促進を図るためにもあら摘果はできるだけ早く実施しましょう。

(2) 薬剤摘果

ア) 使用薬剤

摘果の労力を軽減し、作業を効率よく進めるために、薬剤による摘果技術を有効に利用しましょう。気象条件や樹体条件により効果の発現が不十分な場合もあります。また、品種により感受性が大きく異なり、「つがる」「秋映」等の感受性の高い品種にかかると過剰摘果となることがありますので注意してください。

イ) 散布のコツ

- a 単用散布とします。
- b 気温が高くなりそうな午前中に散布します。(散布後に気温が高くなる日が続くと効果大)
- c 散布量はたっぷり!
- d 乾燥状態では効果が低いので、乾燥しているようならば散布前に灌水を実施しましょう。

ウ) 効果確認

- a 散布後 2 週間頃から確認できます。果柄が黄色みを帯び、果実の生気がなくなるなど。
- b 効果が確認できるまで、摘果剤を散布しなかった園のあら摘果を随時行いましょう!

2 ぶどう

「無核短梢栽培」

(1) 芽かき

ア) 花穂の状態が確認でき次第(展葉 4～5 枚期) 早めに 1 結果母枝当り 1 新梢に整理します。

イ) 主枝から結果部までの間延びを防ぐために、できるだけ基部側の新梢を残します。

ウ) もし、欠損部がある場合は、隣接部で 2 新梢残し、空間を埋めます(図 2)。

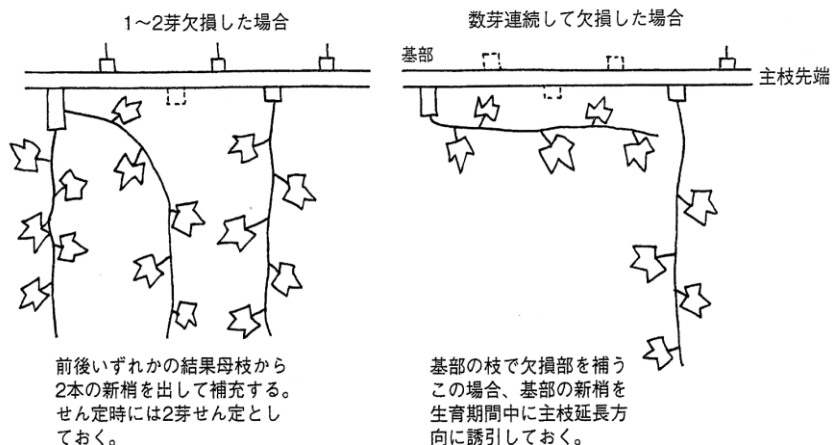


図2 結果母枝が欠損した場合の対応策

(2) 新梢誘引

- ア) 誘引時に新梢が折れてしまいそうな時は、事前に新梢基部の第2～4節間を軽く捻枝してから誘引・棚付けします（捻枝しても枝折れが心配される時は、捻枝1～2日後に誘引、棚付けする）。
- イ) 棚付けは新梢長が50～60cm程度に伸びた頃から行います。新梢の間隔が20cmになるように芽かきをしながら実施しましょう。1回にできるだけ多くの新梢を棚付けするようにします。
- ウ) 新梢同士が重ならないように、主枝に対して直角になるように誘引・棚付けします。
- エ) 花房管理を効率的に行うには、誘引時に使いたい方の花穂が下を向くように行うとよいでしょう。

「無核中梢栽培(巨峰)」

(1) 芽かき

新梢の強さをある程度揃え、棚を明るくし、開花期を少しでも揃えるために芽かきを行います。

- ア) 展葉初期 不定芽と7芽以上の結果母枝の基部2芽をかき取ります。
また7芽以上の結果母枝は先端又は2番目のどちらかを欠き、新梢を揃えます。
- イ) 展葉7～8枚期 副芽及び極端に強い新梢をかき取ります。
開花期に60～80cmとなる新梢で揃え、開花が揃うようにします。

(2) 誘引

新梢が30～40cmに伸びたものから順次棚付けすることで、新梢勢力の平均化を図ります。

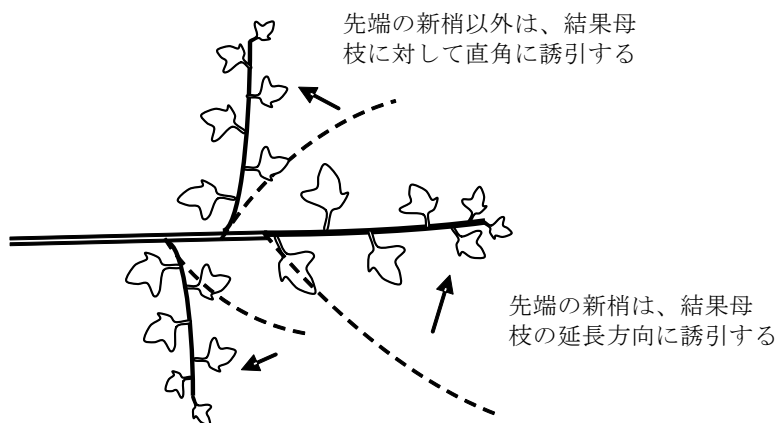


図3 新梢の誘引方法